

# 区政Now！（平成29年2月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」・・・西川太一郎

発行：荒川区

1月8日



荒川区は、自治体のトップランナーとして全国に先駆けて様々な取組を行っています。例えば、平成27年3月に「荒川区俳句のまち宣言」をして以来、積極的に俳句事業に取り組んでまいりました。今回、その姿勢に賛同された前EU大統領で日EU俳句交流大使のヘルマン・ファン＝ロンパイ氏が区を訪問され、松尾芭蕉ゆかりの地である南千住で「奥の細道矢立初めの地」句碑や松尾芭蕉像を視察されました。また、「幸せの国」として有名なブータン王国の元教育大臣が区内の小学校を視察され、タブレットPCなど最新機器を導入した授業に大変興味を示されていました。

今後とも、前例にとらわれることなく、大胆かつきめ細やかな施策の実施に努めてまいりますので、引き続き、御理解、御協力のほどよろしくお願いいたします。

## 日EU俳句交流大使が荒川区を訪問されました

1月18日、前EU大統領で日EU俳句交流大使である、ベルギーのヘルマン・ファン＝ロンパイ氏が、夫人と共に荒川区を訪問されました。今回の訪問は、ロンパイ氏が受賞されたアジアコスモポリタン賞を主催する、東アジア・アセアン経済研究センター事務総長の西村英俊氏が「荒川区俳句のまち宣言」の起草委員会委員であり、当区をご紹介いただいたことで実現いたしました。



松尾芭蕉像とともに

夫妻は、「奥の細道矢立初めの地」句碑や南千住駅前の「松尾芭蕉像」を視察され、素盞雄神社では英語で詠まれた俳句を納められました。その後の区役所での対談では、海外の俳句資料を収集・展示予定である3月開館の「ゆいの森あらかわ」にも関心を示されました。

現在、俳句はユネスコの無形文化遺産への登録に向けた動きが進められています。区とも縁の深い国際俳句交流協会会長の有馬朗人氏をはじめとして設立される俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会（仮称）に荒川区も参加することになりました。今後とも俳句文化の普及に向け、取組を進めてまいります。

主な事業

## ブータン王国の元教育大臣が荒川区を訪問されました

1月13日、ブータン王国の元教育大臣で現ロイヤルティンブ大学学長であるタクル・S・ポードル氏が、ブータン王国のGNH（国民総幸福量）にヒントを得てGAH（荒川区民総幸福度）の取組を行っている荒川区を訪問し、意見交換や教育現場の視察をされました。



幸福について意見交換をしました

視察に訪れた汐入東小学校では、電子黒板とタブレットPCを活用した授業に驚いていらっしゃいました。また、学校図書館では、本の多さや児童が楽しそうに図書を使って学んでいる様子をご覧になり、児童や担当の先生に話し掛けるなど興味津々の様子でした。

区では、だれもが幸せを実感できるまち「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指し、GAH調査を活用しながら物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさを実現できるよう様々な施策に取り組んでまいります。

## 24名の「荒川区地域産業活性化パートナー」が誕生しました

1月23日、「目利き力」向上講習を修了し、地域産業の活性化に向けて意欲的に活動する意思や能力のある地域金融機関の職員24名を、地域産業活性化パートナーに認定しました。

「目利き力」向上講習は、地域金融機関職員向けの講習実績があり、区とも連携協定を締結している山形大学の協力を得て実施したものです。区内企業の事例研究等を通じ、企業の将来性に着目することで、過度に担保等に依存しない事業性評価に必要な「目利き力」の育成に取り組みました。

地域産業活性化パートナーには、今後、その「目利き力」を生かして企業支援を行っていただくとともに、産学公金のネットワーク構築や区との積極的な情報交換等を通じて、区内産業の活性化を推進していただきます。

次年度からは第2期の募集を行い、地域産業活性化パートナー間の交流も図ってまいります。今後とも地域経済の活力向上に向け、全力で取り組んでまいります。



地域産業活性化パートナー認定式の様子

## 認知症の早期発見・早期治療に向けて体制を強化しました

認知症は、誰でもかかる可能性があり、高齢化の進展とともに、年々増加することが予測されています。早期に診断を受け、症状が軽いうちにご本人やご家族が認知症への理解を深め、病気と向き合うことで、今後の生活に備えることができます。

区では、認知症の人やその家族にできるだけ早期に関わる、専門的な知識・技術を持つ医師と複数の専門職（看護師・精神保健福祉士・社会福祉士等）によって構成される「荒川区認知症初期集中支援チーム」を設置しました。

このチームは、家族等のご希望により認知症が疑われる又は認知症の人及びその家族を訪問し、家族への対応等初期段階での支援を包括的集中的に実施し自立した生活を目指します。

今後とも、認知症の方やその家族がいつまでも住み慣れたまちで安心して暮らすことのできる「生涯健康都市」の実現を目指してまいります。

## 来年度から学童クラブの受け入れを拡充します

区では、共働き家庭等を支援し、放課後の児童の健全育成を図るため、学童クラブについて、新設や活動スペースの拡張等により、受入体制の拡充に取り組んでいます。

平成29年度は、日暮里地域に、新たに（仮称）日暮里学童クラブを開設し、汐入地域でも、公共施設を有効活用した定員拡大を行います。さらに、高学年児童については、これまで10施設での受け入れを実施してきたところですが、ニーズ等に対応し、一次募集の結果、定員に十分な余裕が生じた学童クラブにおいても、二次募集からの受け入れを開始します。

未来社会の守護者である子どもたちが明るく健やかに育つことができる地域社会を築いていくため、今後も子育て環境の整備に積極的に取り組んでまいります。



宿題タイムの様子